

主要施策	健やかで安心な暮らしを支える保健・医療体制の充実
施策の柱	4 地域医療体制
施策の分類	保健・医療

■ 現状と課題

○地域医療を取り巻く背景

高齢化が進む中で、初期医療から高度医療にわたる医療の充実が求められていますが、慢性的な医師不足や施設の老朽化、財政難などにより、思うような医療が提供できない状況です。

○西北五地域の自治体病院機能再編成

現在、つがる西北五広域連合において、圏域の5自治体病院の運営体制を集約し、人・もの・予算を効率よく活用して、圏域全体で地域医療を支えていく計画が進められています。

この西北五地域における自治体病院の機能再編成計画により、平成25年度中に中核病院（「つがる総合病院」）が開院し、町立中央病院は平成24年度中に無床のサテライト診療所（※1）（「鶴田診療所」）として開設します。

○これからの地域医療体制

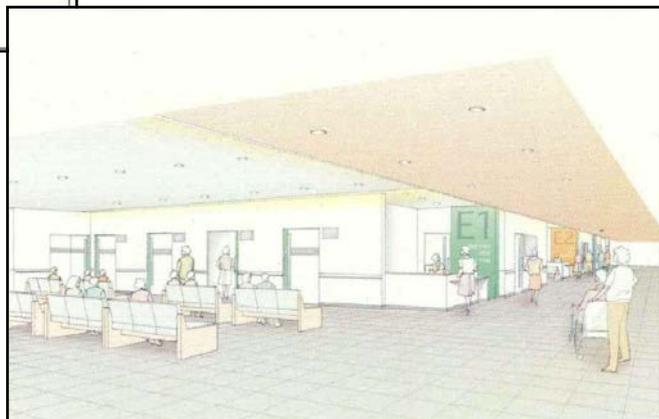
医療機能の再編によって、中核病院との連携により高度救急・高度専門医療まで、多様な医療ニーズに対応できる地域医療体制となることから、圏域における広域的な医療の連携体制を整備することが課題となります。

※1 サテライト診療所…大きな病院や病院グループが開設する、外来診療を行う小さな診療所。



西北五地域の中核病院として五所川原市に整備される「つがる総合病院」のイメージ図。

県立中央病院や弘前大学附属病院のように、高度な医療が近くで受けられるようになります。



■ 目指す姿（基本方針）

- 新しい診療所で安心して初期医療・かかりつけ医機能の提供を受けられ、遠くまで行かなくても高度な医療を受けられるまちを目指します。
- 周辺地域の医療機関の情報が容易に得られ、病気になった時に悩むことのないまちを目指します。

■ 施策の内容

- 新診療所では初期医療を提供するほか、かかりつけ医の機能や、予防接種・住民健診の体制を確保します。
- 高度専門医療がスムーズに受けられるよう、電子カルテ、オーダーリングシステムによる医療情報を5つの医療機関（※1）で共有するとともに、医療スタッフ同士の連携に努めます。
また、診療所と中核病院を結ぶ連絡バスの運行については、現在つがる西北五広域連合において検討しています。
- 社会福祉協議会、県・近隣市町村などとの連絡体制を緊密にするとともに、町内外の介護施設等と連携することで急性期（※2）治療後のフォローに努めます。

※1 5つの医療機関…つがる総合病院、かなぎ病院、鱒ヶ沢病院、つがる市民診療所、鶴田診療所

（診療所の名称は仮称）

※2 急性期…病気を発症し急激に健康が失われ、不健康となった状態。一般的に処置・投薬・手術などを行うことにより、1ヶ月程度で治癒する場合とされています。

担当：つがる西北五広域連合・健康保険課

◆つがる総合病院 診療科

（「西北五地域における自治体病院機能再編成マスタープラン」より）

消化器内科・血液内科・膠原病内科、循環器内科・呼吸器内科・腎臓内科、
内分泌内科・糖尿病代謝内科・感染症科、
呼吸器外科・心臓血管外科、消化器外科・乳腺外科・甲状腺外科・小児外科、
小児科、精神科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、
皮膚科、泌尿器科、形成外科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、健康管理科

※ 診療科の名称は弘前大学附属病院に準ずる。